科目名				Compute	Computer Introduction				1-1
担当者	法華	秀幸	実務経験 の有無	有	有 選択 必修 区			専門科目・講義	
開講期	通年	後期:4時間(回数:17回)				授業時数	136 時間		
教材 教具	情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論 (ウイネット)								
担当者 の実務 経験	SEとし	SE として主に下流工程業務に従事し、また IT 技術研修講師などの経験をもとに指導する。							

【学修内容】科目のねらい(目的)

IT パスポートは、国際情報学科として最も重要な資格であり全学生が受験をする。当科目はその受験 ▼対策としてコンピュータの構造や基礎理論、情報システムのマネジメントなどについて、合格に足る十

分な	分な知識を身につける学習内容である。								
【授	業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1	コンピュータの	基礎知識	1	システムの構成要素					
2	JJ		2	II					
3	JJ		3	II.					
4	小テスト		4	小テスト					
5	コンピュータの	数值表現	5	ソフトウェア					
6	IJ		6	II					
7	小テスト		7	n					
8	定期試験		8	小テスト					
9	補数・数値表現		9	定期試験					
10	JJ		10	マルチメディア					
11	IJ		11	II					
12	小テスト		12	II					
13	ハードウェア		13						
14	11		14						
15	IJ		15	II					
	小テスト		16						
17	定期試験		17	定期試験					
	授業方法 業の進め方)	教科書やプリントでの説明と演習	習問是	夏の解答で理解度を確認しながら進める。					
	到達目標	各章ごとのポイントが理解でき、	章末	r問題を解くことができること。					
	対 対 対 法と 基準	年間 4 回の中間・期末考査、随時出席率:30% 授業態度:40% 以上の項目を合計し、評価点をご		5 小テスト: 30% 点法で算出し、60 点以上を認定する。					
授業	寺に復習。								
	をに当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原 な姿勢などを評価する。	居眠り	0、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的					

i							
ゴリズム	英文名	Algorithm			学科科目 番号	1-2	
英樹	実務経験 の有無	有	選択 必修 必修		科目区分	専門科目・講義	
通年 前期:4時間(回数:17回)			後期:4時間(回数:17回)			授業時数	136 時間
オ アルゴリズムとデータ構造(ウィネット)							
システム開発会社にて、ソフトウェアのシステム設計・開発、データベース・ネットワーク構築							
F	英樹 前期:4時間(回数:1 ゴリズムとデータ構造(ウ	英樹 実務経験 の有無 前期:4時間(回数:17回) ゴリズムとデータ構造(ウィネット)	英樹 実務経験 有 の有無 有 前期:4時間(回数:17回) 後期:4時	英樹 実務経験 有 選択 必修 が期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回)	英樹 実務経験 有 選択 必修 必修 が期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回)	英樹 実務経験 の有無 有 図択 必修 必修 区分 前期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回) ゴリズムとデータ構造(ウィネット)	英樹 英樹 実務経験 の有無 有 選択 必修 必修 区分 専門科 区分 前期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回) 授業時数 ゴリズムとデータ構造(ウィネット)

【学修内容】科目のねらい(目的) 問題を解くための計算法であるアルゴリズムについて

問	問題を解くための計算法であるアルゴリズムについて、これを理解する素質と代表的なアルゴリズム							
			用し身	具体的に問題解決を行うための力を数値解析の遂				
_	·	いつつ身につけます。	1					
【授	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)				
1	第1章 アルゴリ	リズム入門	1	第6章 探索のアルゴリズム				
2	IJ		2	n				
3	II.		3	n				
4	第2章 流れ図の)基本パターン	4	第7章 整列のアルゴリズム				
5	"		5	II				
6	IJ		6	II				
7	第3章 擬似言語	吾の基本パターン	7	II				
8	II.		8	定期試験				
9	II.		9	第8章 データ構造				
10	定期試験		10	n				
11	第4章 計算の7	アルゴリズム	11	II				
12	II.		12	II				
13	IJ		13	第9章 実践アルゴリズム				
14	第5章 配列の排	操作	14	II				
15	IJ		15	II				
16	IJ		16	II				
17	定期試験		17	定期試験				
	授業方法 業の進め方)	教科書やプリントでの説明と演習	写問 是	夏の解答で理解度を確認しながら進める。				
:	到達目標	各章ごとのポイントが理解でき、	章末	に問題を解くことができること。				
	対 対 対 対 法と 基準	年間 4 回の中間・期末考査、随田 出席率:30% 授業態度:40% 以上の項目を合計し、評価点をご		5 小テスト: 30% 点法で算出し、60 点以上を認定する。				
	美時間以外に 公要な学修	授業ごとの予習・復習を心掛ける	5。朱	寺に復習。				
	をに当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や別な姿勢などを評価する。	居眠り	0、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的				

科目名	Python 実習 I 英文名			Python I				学科科目 番号	1-3
担当者			実務経験 の有無	無 有	選択 必修 科目 必修 区分		専門科	目・実習	
開講期	通年	前期:2時間(回数:	17回)	後期:2甲	寺間 ([回数:17	回)	授業時数	68 時間
教材 教具	Python1年生 第2版 体験してわかる!会話でまなべる!プログラミングのしくみ (翔泳社)								
担当者 の実務 経験		メーカー系ソフトウエア会社で、北米向け電子交換機のデータジェネレータ開発に従事後、工業高校で主に情報系の教科やロボコンを指導しながら、学校のシステム管理を担当した。(岡本)							

【学修内容】科目のねらい(目的)

Web 開発やデータ分析などの分野で人気のある Python で、簡単なサンプルを作りながら、会話形式 でプログラミングを学ぶ。後期後半はアプリケーションの作成を行い応用力を身につける。

【授	業計画】	コマシラバス (前 期)	コマシラバス(後 期)					
1	第1章 Pytho	n で何ができるの?	1	アプリケーション作成				
2	パソコン搏	操作練習	2	II				
3	パソコン開	月発環境整備	3	n				
4	IJ		4	n				
5	第2章 Pyth	on を触ってみよう	5	第5章 人工知能(チノ)くんと遊んでみよう				
6	IJ		6	n				
7	IJ		7	アプリケーション作成				
8	IJ		8	アプリケーション作成				
9	定期試験		9	定期試験				
10	第3章 プロ	グラムの基本を知ろう	10	アプリケーション作成				
11	IJ		11	アプリケーション作成				
12	IJ		12	アプリケーション作成				
13	II.		13	アプリケーション作成				
14	第4章 アプ	リを作ってみよう	14	4 アプリケーション作成				
15	"		15	5 アプリケーション作成				
16	II.		16	アプリケーション作成				
17	定期試験		17	定期試験				
	受業方法 業の進め方)	授業は教科書で基本構文を学んだ	ご後、	練習問題をパソコンで実習する。				
2	到達目標	Python のモジュールやプログラ きる。(Python3 エンジニア認定		読み書きでき、ライブラリのモジュールを利用で 養試験 合格レベル)				
	え 注と基準	・年間 4 回の中間・期末試験お。 ・出席率:20% ・授業態度点:20%	よびぽ	美習課題:60%				
	時間以外に、要な学修	・課題・レポートは期日までに作	乍成 l	して提出する。				
	に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原な姿勢があるかどうかなど平素の		り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的 動を評価するものである。				

科目名	HTML/	Web 実習	英文名	HTML/W	VebPag		学科科目 番号	1-4	
担当者	土井 迪広		実務経験 の有無	無	無 選択 必修		科目 区分	専門科	目・実習
開講期	通年 前期:4時間(回数:17回)			後期:4時間(回数:17回)				授業時数	68 時間
教材 教具									
担当者 の実務 経験	务								

【学修内容】科目のねらい(目的)

HTML は Web サイト作成や Web 開発などの基盤であり、最も重要な言語です。書き方や特徴につい て学びます。1年生で回り込みのCSSあたりまで学修し、続きを2年生で学習します。

(ž	受業計画】	コマシラバス(前 期)	コマシラバス (後 期)				
1	HTML ファイルと WE	EB サーバー	1	角丸、影、半透明の CSS			
2	タグの基本と改行		2	div 要素とspan 要素			
3	見出しと段落		3	回り込みのCSS			
4	文字の装飾		4	フレックスボックスを使った配置			
5	画像の掲載		5	リンクCSS			
6	リンクの作成―1		6	CSSのまとめ			
7	リンクの作成―2		7	表の作成			
8	CSS の基本一1		8	表のCSS指定			
9	定期試験		9	定期試験			
10	CSS の基本一2		10	グループ化とセルの結合			
11	文字書式の CSS-1		11	リストの作成と活用			
12	文字書式の CSS-2		12	ページレイアウトの作成一1			
13	CSS の色指定		13	ページレイアウトの作成一2			
14	背景の CSS		14	CSSファイルの活用			
15	サイズと枠線の CSS			5 インラインフレームの作成			
16	余白の CSS		16	3 フォームの作成			
17	定期試験		17	定期試験			
	授業方法 業の進め方)	授業は基本タグを学んだ後、練習	引問是	重で実習する。			
	到達目標	HTML CSS を使って Web サイ	トを作	作成できる。			
	戈績評価の 方法と基準	・年間 4 回の中間・期末試験お。 ・出席率:20% ・授業態度点:20%	よび多	実習課題:60%			
	業時間以外に 必要な学修	・課題・レポートは期日までに作	乍成 l	して提出する。			
	履修に当たって 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極 な姿勢があるかどうかなど平素の行動を評価するものである。						

	<u>. </u>		i i	•	·		·	
生活の日本語 英文名			Japanese Everyday				学科科目 番号	1-5
中村菊子	2	実務経験 の有無	無	選択必修	必修	科目 区分	一般科目	1・講義
通年	前期: 68 時間 (回数	: 17 回)	後期:	68 時間	(回数:	17回)	授業時数	136 時間
まるごと 日本のことばと文化 初中級								
	中村菊子通年まるごと	中村菊子 通年 前期: 68 時間 (回数	中村菊子実務経験の有無通年前期: 68 時間(回数:17 回)まるごと日本のことばと文化 初中級	中村菊子 実務経験 の有無 無 通年 前期: 68 時間 (回数: 17 回) 後期: まるごと 日本のことばと文化 初中級	中村菊子 実務経験 の有無 無 選択 必修 通年 前期: 68 時間(回数:17 回) 後期: 68 時間 まるごと 日本のことばと文化 初中級	中村菊子 実務経験 の有無 無 必修 必修 必修 通年 前期: 68 時間(回数:17 回) 後期: 68 時間(回数: まるごと 日本のことばと文化 初中級	中村菊子 実務経験 の有無 無 必修 必修 区分 通年 前期: 68 時間 (回数:17 回) 後期: 68 時間 (回数:17 回) まるごと 日本のことばと文化 初中級	中村菊子 実務経験 の有無 無 選択 必修 区分 本 日本のことばと文化 本 日本のことがよりまたなどの

【学修内容】科目のねらい(目的)

	【子修内谷】科目のねらい(目的) 具体的な文脈や場面と結びつけながら、実際のコミュニケーション場面で使える日本語の習得を目指す。							
【授	受業計画】	コマシラバス(前期)		コマシラバス(後期)				
1	会話の基礎	(1)	1	結婚(1)				
2	スポーツの記	式 合(1)	2	結婚(2)				
3	スポーツの記	式 合(2)	3	結婚 (3)				
4	家をさがす	(1)	4	なやみ相談 (1)				
5	家をさがす	(2)	5	なやみ相談(2)				
6	ほっとする負	 とべ物 (1)	6	なやみ相談 (3)				
7	ほっとする1	 食べ物 (2)	7	旅行中のトラブル(1)				
8	訪問 (1)		8	旅行中のトラブル(2)				
9	ふりかえり		9	ふりかえり				
10	中間試験		10	中間試験				
11	訪問 (2)		11	旅行中のトラブル (3)				
12	訪問(3)			仕事をさがす(1)				
13	ことばを学ぶ楽しみ(1)			仕事をさがす (2)				
14	ことばを学え	ぶ楽しみ (2)	14	仕事をさがす (3)				
15	ことばを学る	ぶ楽しみ (3)	15	仕事をさがす (4)				
16	ふりかえり		16	ふりかえり				
17	期末試験		17	期末試験				
	授業方法	各回「聞く」「話す」を中心とした。	コミニ	ュニケーション活動とコミュニケーションを支え				
授	業の進め方	る言語構造(文法・文型)の学習	を進	めていく。				
				な身近な話題について理解できる。				
		- 日本で生活する時に起こりそう						
	到達目標			結びつけられた、脈絡のあるテクストを作る ごと、夢、希望などを説明し、意見や計画の理由、				
		- ここがくさることもに、経験、 - 説明を短く述べることができる		- こ、夕、仰重なこで眺めし、思元(前画の柱山、				
万		会話をしながらのインターアクションテストと筆						
	方法と基準 記試験)および授業の理解度による評価点 40%							
	美時間以外に	教室外での日本語の使用						
必要な字修								
	冬に当たって の <u>の</u> 竞点		会話し	こ参加する態度やノートをとるなど勉強に対する				
	の留意点	意欲で評価する。						

科目名	日本語館	ピカ試験対策 I-1	英文名	Japanese Language Proficiency Test I				学科科目 番号	1-6
担当者	当者平野裕久 中村菊子実務経験 の有無		無	選択 必修		科目 区分	一般科	目・講義	
開講期	前期	前期:4時間(回数:	17回)	後期:時間(回数:回)			授業時数	68 時間	
教材 教具									
担当者 の実務 経験									

【学修内容】科目のねらい(目的)

N3 レベル相当の聴解および読解試験に十分な日本語力を身につける。同時に身につけた力を社会生活で

	いるレックル相当の心解れない批解試験に十分なり本語力を身にうける。同時に身にうけた力を任去生品でも運用できるようにする。								
【授	受業計画】	コマシラバス(前期)		コマシラバス(後期)					
1	イントロダクション	/:授業の進め方・試験問題のスタイル解説	1	前期の復習					
2	ウォーミング	ブアップ(いろいろな表現)	2	聴解:課題理解、読解: 読み方ポイント 6(2)					
3	聴解:課題理	解、読解:読み方ポイント1	3	聴解:ポイント理解、読解: 読み方ポイント 7(2)					
4	聴解:ポイン	ト理解、読解:読み方ポイント2	4	聴解:概要理解、読解: 読み方ポイント 8(2)					
5	聴解:概要理例	解、読解:読み方ポイント3	5	聴解:発話理解、読解: 読み方ポイント 9(2)					
6	聴解:発話理例	解、読解読み方ポイント4	6	聴解:即時応答、読解: 読み方ポイント 10(2)					
7	聴解:即時応	答、読解:読み方ポイント5	7	聴解:課題理解、読解: 読み方ポイント 11(2)					
8	ふりかえり		8	聴解:ポイント理解、読解: 読み方ポイント 12(2)					
9	中間模擬試験	ф	9	中間模擬試験					
10	聴解:課題理例	解、読解:読み方ポイント 6(1)	10	聴解:概要理解、読解:短文					
11	聴解:ポイント	理解、読解:読み方ポイント 7(1)	11	聴解:発話理解、読解:中文					
12	2 聴解:概要理解、読解:読み方ポイント 8(1)			聴解:即時応答、読解:中文					
13	聴解:発話理例	解、読解:読み方ポイント 9(1)	13	聴解:課題理解、読解:中文					
14	聴解:即時応	答、読解:読み方ポイント 10(1)	14	聴解:課題理解、読解:長文					
15	聴解:課題理例	解、読解:読み方ポイント 11(1)	15	聴解:概要理解、読解長文					
16	聴解:課題理	解、読解:読み方ポイント 12(1)	16	ふりかえり					
17	期末模擬試験	 倹	17	期末模擬試験					
	授業方法 業の進め方)		や文法	の授業で読解を実施する。授業の構成は各授業の 法をチェックし、問題を解き、その後解説をする 足応答を交えながら行う。					
	到達目標			ーセント以上正答できる力を身につけることを目 実際の生活で最低限必要な理解力を習得すること					
	対績評価の 方法と基準	N3 模試における理解度および授	業の	出席状況、授業態度を総合的に評価する。					
	美時間以外に 必要な学修	聴解においては必要最低限の Na なかったこと、知らない言葉は		語彙について学習する。読解においては理解でき 复習し、理解をし、覚える。					
	多に当たって の留意点			答をしながら進めるので、積極的な参加を望む。 タイプ別の読み取るポイントも習得できるように					

科目名	日木語台	と と力試験対策 I-2	英文名	Japanese	e Lang	学科科目	1-7					
17 11 11	日/平四月		大人石	Proficien	cy Tes	t I		番号	1 /			
+⊓ \/\ \	平野裕久	X.	実務経験	選択		722.40	科目	台ルエハ	D ## ##			
担当者	中村菊	7	の有無	無	必修	選択	区分	一般科	目・講義			
開講期	前期	前期:時間(回数:回))	後期・4日	持間 (「	授業時数	68 時間					
N11 HL2. N1	前期 前期:時間(回数:回) 後期:4時間(回数:17回) 授業時数 68							CHI F. CO				
教材	・N3 聴	[解スピードマスター										
教具	• JLPT	'読解 N3 ポイント&こ	プラクティ	ス								
担当者												
の実務												
経験												
V 337 16- 1		· / H // \						•	•			

【学修内容】科目のねらい(目的)

N3 レベル相当の聴解および読解試験に十分な日本語力を身につける。同時に身につけた力を社会生活で

も道	運用できるよう		тиру	EN (C 21) S. FIN (CN (C 21) /C/) E HATII C
【授	受業計画】	コマシラバス(前期)		コマシラバス (後期)
1	イントロダクション	/:授業の進め方・試験問題のスタイル解説	1	前期の復習
2	ウォーミング	ブアップ(いろいろな表現)	2	聴解:課題理解、読解: 読み方ポイント 6(2)
3	聴解:課題理	解、読解:読み方ポイント1	3	聴解:ポイント理解、読解: 読み方ポイント 7(2)
4	聴解:ポイン	ト理解、読解:読み方ポイント2	4	聴解:概要理解、読解: 読み方ポイント 8(2)
5	聴解:概要理例	解、読解:読み方ポイント3	5	聴解:発話理解、読解: 読み方ポイント 9(2)
6	聴解:発話理例	解、読解読み方ポイント4	6	聴解:即時応答、読解: 読み方ポイント 10(2)
7	聴解:即時応	答、読解:読み方ポイント5	7	聴解:課題理解、読解: 読み方ポイント 11(2)
8	ふりかえり		8	聴解:ポイント理解、読解: 読み方ポイント 12(2)
9	中間模擬試験	ക	9	中間模擬試験
10	聴解:課題理例	解、読解:読み方ポイント 6(1)	10	聴解:概要理解、読解:短文
11	聴解:ポイント	理解、読解:読み方ポイント 7(1)	11	聴解:発話理解、読解:中文
12	聴解:概要理	解、読解:読み方ポイント 8(1)	12	聴解:即時応答、読解:中文
13	聴解:発話理例	解、読解:読み方ポイント 9(1)	13	聴解:課題理解、読解:中文
14	聴解:即時応	答、読解:読み方ポイント 10(1)	14	聴解:課題理解、読解:長文
15	聴解:課題理例	解、読解:読み方ポイント 11(1)	15	聴解:概要理解、読解長文
16	聴解:課題理	解、読解:読み方ポイント 12(1)	16	ふりかえり
17	期末模擬試験	ф	17	期末模擬試験
	授業方法 業の進め方)		や文法	の授業で読解を実施する。授業の構成は各授業の 去をチェックし、問題を解き、その後解説をする 足応答を交えながら行う。
	到達目標			ーセント以上正答できる力を身につけることを目 実際の生活で最低限必要な理解力を習得すること
	找績評価の ♂法と基準	N3 模試における理解度および授	業の	出席状況、授業態度を総合的に評価する。
	美時間以外に 必要な学修	聴解においては必要最低限の N:なかったこと、知らない言葉は必		語彙について学習する。読解においては理解でき 复習し、理解をし、覚える。
	多に当たって の留意点			答をしながら進めるので、積極的な参加を望む。 タイプ別の読み取るポイントも習得できるように

科目名	Python	実践 I	英文名	Python p	ractic	e I		学科科目 番号	1-8		
担当者	岡本 力	有	選択 必修	選択	科目 区分 専門科目・		目・実習				
開講期	通年	前期:なし	後期:2	時間([授業時数	68 時間					
教材 教具											
担当者 の実務 経験	ソフトウェア企業にてシステム設計・製造										

【学修内容】科目のねらい(目的)

Python 実習 I で Python の基礎的文法を履修し、さらに足場を固めるため、具体的で実践的なアプリ ケーション(シューティングゲーム)を作り上げていく。また一から作り上げていく過程でアプリケー ション作成の手法を学ぶことも当該科目の目的とする。

【授業計画】 コマシラバス(後 期) 1 Python 実践の学習のねらい 2 第1章 弾を発射する宇宙船 3 宇宙船の画像を追加する 4 宇宙船を操作する 5 弾を発射する 6 第2章 エイリアン! 7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する 9 艦隊を動かす							
2 第1章 弾を発射する宇宙船 3 宇宙船の画像を追加する 4 宇宙船を操作する 5 弾を発射する 6 第2章 エイリアン! 7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する							
3 宇宙船の画像を追加する 4 宇宙船を操作する 5 弾を発射する 6 第2章 エイリアン! 7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する							
4 宇宙船を操作する 5 弾を発射する 6 第2章 エイリアン! 7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する							
5 弾を発射する 6 第2章 エイリアン! 7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する							
6 第2章 エイリアン! 7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する							
7 エイリアンを生成する 8 エイリアンの艦隊を編成する							
8 エイリアンの艦隊を編成する							
q							
10 エイリアンを撃つ							
11 ゲームを終了する							
12 第3章 得点を表示する							
13 Play ボタンを追加する							
14 ゲームをリセットする							
15 レベルアップする							
16 得点を表示する							
17 まとめ							
授業方法 授業方法 ・ションをよりよくしてくために、学生同士の意見交換を重視し、アイディアを							
(授業の進め方) プラブをよりよくしてくために、子生国工の意光又換を重視し、アイティテを 合い、検討しながら実践していく。	Щυ						
最終的に次の能力を備えることを目標とする。							
到達目標・自らの力でプログラムを作成できる							
・問題解決のために、順序立てて思考できる							
・実習課題およびレポート:60%							
成績評価の ・ 出席率 : 20%							
方法と基準 ・授業態度点:20%							
以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出する。60点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。							
遺修に当たって 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的 の留意点 な姿勢などを評価する。							
四笛息点 な姿勢などを評価する。							

						※授業の	り1単位	7時間は 45	分とする		
科目名	社会人	基礎	英文名	Basis of	Japan	学科科目 番号	1-9				
担当者	者 土井 迪広 実務経験の有無 無 選択 必修						科目 区分	一般科	目・講義		
開講期	通年 前期:1時間(回数:17回) 後期:1時間(回数:17回) 授業時数 34日								34 時間		
教材 教具	- 1 翌字生・日本で働く 1 ())ため())ビジネスマナーとルール										
	【学修内容】科目のねらい(目的) 日本での就労を希望する留学生が、日本人と一緒に働くために必要なマナーとルールを身に付ける。										

【授業計画】 コマシラバス(前期) コマシラバス(後期) ビジネスコミュニケーション・日本で働くための心構え 社内外のマナー・話を聞く 1 1 ビジネスコミュニケーション・上司・先輩との付き合い 社内外のマナー・指示を受ける 2 2 ビジネスコミュニケーション・上司・同僚との付き合い | 社内外のマナー・注意を受ける 3 3 ビジネスコミュニケーション・就業時間外での付き合い 社内外のマナー・退社時 4 4 ビジネスコミュニケーション・ウチとソト、チームワーク 社内外のマナー・名詞 5 5 社内外のマナー・雑談 ビジネスコミュニケーション・話し方における配慮 6 6 ビジネスコミュニケーション・会議での発言 社内外のマナー・席次 定期試験 8 定期試験 8 ビジネスルール・時間厳守 ビジネススキル・敬語 9 9 10 ビジネススキル・話ことばと書きことば 10 ビジネスルール・就業時間 11 ビジネスルール・身だしなみ 11 ビジネススキル・漢字 12 ビジネススキル・メール 12 ビジネスルール・あいさつ 13 ビジネスルール・お辞儀 13 ビジネススキル・文書 14 ビジネスルール・報告・連絡・相談 14 ビジネススキル・郵便物 15 ビジネスルール・情報管理 15 ビジネススキル・電話を受ける 16 ビジネスルール・ハラスメント 16 ビジネススキル・電話をかける 17 定期試験 17 | 定期試験 教科書を使った講義のあと、「話す」「書く」「試す」「意見交換」で習ったことの 授業方法 (授業の進め方) 定着を確認しながら進める。 社会人として、他者から「何も知らないのか」と思われることのない言動ができる。 到達目標 a:試験成績 60%:年4回の定期試験に日頃の態度・意欲を加えて試験成績を算出する。 成績評価の b:出席点40%:全授業時数の70%以上の出席が必要。これに満たない場合は 方法と基準 試験の成績がよくても認定しない。 a と b を合わせて評価点(100 点満点)とし、60 点以上を認定とする。 授業時間以外に アルバイト先、アルバイト中に習ったことを実践してみること。 必要な学修 履修に当たって 聞くだけの講義ではない。「書いてみる」「話してみる」「行動してみる」に積極的に

参加すること。

の留意点

科目名	資格対策	♥ I (基本情報)	英文名	Preparat	ion co	学科科目	2-1		
17 17 17	付日石 員份內來 1 (至本旧報)			(Fundam	ental	番号	Δ^-1		
担当者	土井 追	迪 広	実務経験	無	選択 必修		科目	専門科	目・講義
15 = 14	工开 !!	4/4	の有無	***	必修	北修	区分	411/14	口,時我
開講期	通年	後期:25	時間 (「	授業時数	68 時間				
1511 1144-551	X12 1	前期:2時間(回数:	ш,	(27)	4) tule.	J 300 · I I	ш/	12/2/19	00 11111
教材	≇車舗ぶん	作成したプリント							
教具	再印ルイ	FM したノリント							
担当者									
の実務									
経験									

【学修内容】科目のねらい(目的)

基本情報技術者試験は、国際情報学科として最も重要な資格であり全学生が受験をする。当科目はそ の受験対策としてコンピュータの構造や基礎理論、情報システムのマネジメントなどについて、合格に

足る	る十分な知識を	を身につける学習内容である。		
【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)
1	ストラテジ系(企業と法務)	1	テクノロジ系 (コンピュータシステム)
2	"		2	II
3	ストラテジ系(経営戦略)	3	テクノロジ系 (技術要素)
4	"		4	n
5	ストラテジ系(システム戦略)	5	"
6	<i>II</i>		6	テクノロジ系 (表計算)
7	マネジメント系	(開発技術)	7	II
8	IJ.		8	II
9	定期試験		9	定期試験
10	マネジメント系	(プロジェクトマネジメント)	10	IT パスポート試験対策
11	<i>II</i>		11	n
12	マネジメント系	(サービスマニュアル)	12	II
13	<i>II</i>		13	II
14	テクノロジ系(基礎理論)	14	II
15	II		15	模擬問題 1
16			16	
17	定期試験		17	定期試験
	授業方法 業の進め方)	プリントでの説明と演習問題の角	解答で	で理解度を確認しながら進める。
	到達目標	各章ごとのポイントが理解でき、	章末	に問題を解くことができること。
	戈績評価の 5法と基準	年間4回の中間・期末考査、随町 出席率:30% 授業態度:40% 以上の項目を合計し、評価点をご		5 小テスト: 30% 点法で算出し、60 点以上を認定する。
	巻時間以外に 必要な学修	授業ごとの予習・復習を心掛ける	5。朱	特に復習。
	冬に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原 な姿勢などを評価する。	居眠 り	り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的

科目名	資格対策	策Ⅱ (Python)	Preparat	cion co	学科科目 番号	2-2					
担当者	土井 迪広 実務経験の有無			無	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義		
開講期	通年 前期:2時間(回数:17回) 後期:2時間(回数:17回) 授業時数 68								68 時間		
教材 教具	講師作成のプリント										
担当者 の実務 経験											

【学修内容】科目のねらい(目的)

IT パスポートは、国際情報学科として最も重要な資格であり全学生が受験をする。当科目はその受験 対策としてコンピュータの構造や基礎理論、情報システムのマネジメントなどについて、合格に足る十

		つける学習内容である。		/ 凶のマイングントなどについて、百俗に足る丁					
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1	Python の特徴		1	モジュール					
2	Python の特徴		2	モジュール					
3	テキストの数と	操作	3	ファイル入出力					
4	テキストの数と	操作	4	ファイル入出力					
5	テキストの数と	操作	5	例外処理					
6	リスト操作		6	例外処理					
7	リスト操作		7	クラスとオブジェクト					
8	リスト操作		8	クラスとオブジェクト					
9	定期試験		9	定期試験					
10	関数		10	標準ライブラリ					
11	関数		11	標準ライブラリ					
12	関数		12	仮想環境とサードパーティパッケージの利用					
13	コレクションの	操作	13	仮想環境とサードパーティパッケージの利用					
14	コレクションの		14	模擬問題					
15	コレクションの	操作	15	模擬問題					
16	復習		16	模擬問題					
17	定期試験		17	定期試験					
	授業方法 業の進め方)	教科書やプリントでの説明と演習	3問是	夏の解答で理解度を確認しながら進める。					
	到達目標	各章ごとのポイントが理解でき、	章末	E問題を解くことができること。					
	戈績評価の 5法と基準	年間4回の中間・期末考査、随即 出席率:30% 授業態度:40% 以上の項目を合計し、評価点をご		5 小テスト: 30 % 点法で算出し、 60 点以上を認定する。					
	美時間以外に 必要な学修	授業ごとの予習・復習を心掛ける	5。朱	等に復習。					
	多に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原 な姿勢などを評価する。	居眠り	り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的					

	☆ 大大大の工 中国時間は 10 万 こ する											
科目名	Python	実習Ⅱ	英文名	Python	П			学科科目 番号	2-3			
担当者	岡本 力	支樹	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習			
開講期	通年 前期:8時間(回数:17回) 後期:8時間(回数:17回)						授業時数	272 時間				
教材 教具	Python	2年生 体験してわかる	!会話でま	なべる!	スクレ	イピング	のしくみ	み (翔泳社)			
担当者 の実務 経験		メーカー系ソフトウエア会社で、北米向け電子交換機のデータジェネレータ開発に従事後、工 業高校で主に情報系の教科やロボコンを指導しながら、学校のシステム管理を担当した。										

【学修内容】科目のねらい(目的)

データの収集と分析を得意とするプログラミング言語 Python を使って、Web スクレイピングを学ぶ。 また収集したデータを利用して分析を行い、問題を解決する技術を身につける。

【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)							
1	Python でデータをタ	゚゚ウンロード	1	データ分析って何?							
2	11		2	JI .							
3	HTML を解析しよう		3	集めたデータは前処理が必要							
4	JJ		4	II							
5	JJ		5	II							
6	表データを読み書き	しよう	6	データの集まりをひとことでいうと?:代表値							
7	JJ		7	II							
8	JJ		8	II							
9	定期試験		9	定期試験							
10	オープンデータを分	析してみよう	10	図で特徴をイメージしよう:グラフ							
11	JJ		11	11							
12	JJ		12	これって普通なこと?珍しいこと?:正規分布							
13	Web API でデータを	収集しよう	13	n							
14	JJ		14	関係から予測しよう:回帰分析							
15	JJ		15	II							
16	復習		16								
17	定期試験		17	定期試験							
	授業方法 業の進め方)	授業は教科書で基本構文を学んだ	ど後、	練習問題をパソコンで実習する。							
	到達目標	Python のモジュールやプログラ 分析を行い、問題解決に役立てる		た読み書きでき、Web から収集したデータを元に とができる。							
	対績評価の 方法と基準	・年間 4 回の中間・期末試験お。 ・出席率:20% ・授業態度点:20%	よび乳	実習課題:60%							
	美時間以外に 必要な学修	・課題・レポートは期日までに作	乍成 l	して提出する。							
	冬に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語やな姿勢があるかどうかなど平素の		り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的 動を評価するものである。							
		1									

科目名	HTML/	HTML/W	/ebPag	ge .		学科科目 番号	2-4			
担当者	岡本 方	受樹	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習	
開講期	通年	前期:4時間(回数:	17回)	後期:4時間(回数:17回)				授業時数	68 時間	
教材 教具	I HTML 5&CSS3 リークフック 第9節 (カットシステム)と馴教材									
担当者 の実務 経験		メーカー系ソフトウエア会社で、北米向け電子交換機のデータジェネレータ開発に従事後、工 業高校で主に情報系の教科やロボコンを指導しながら、学校のシステム管理を担当した。								

【学修内容】科目のねらい(目的)

ホームページだけでなくアプリケーションのユーザインターフェス作成に欠かせない HTML・CSS について1年生かの続きから学びます。後期からはいろいろなホームページを作成します。

【授	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後期)								
1	HTML/CSS 復習		1	ホームページ作成実習								
2	HTML/CSS 復習		2	"								
3	HTML/CSS 復習		3	"								
4	フレックスボックスを使	走った配置	4	"								
5	リンクCSS		5									
6	CSSのまとめ		6	ホームページ公開実習								
7	表の作成		7	ホームページ公開実習								
8	表のCSS指定		8	ホームページ公開実習								
9	定期試験		9	定期試験								
10	グループ化とセルの	結合	10	Web デザイン実習								
11	リストの作成と活用		11	II								
12	ページレイアウトの作	三成一1	12	II								
13	ページレイアウトの作	三成一2	13	II								
14	CSSファイルの活用		14	CMS 実習								
15	インラインフレームの	作成	15	II								
16	フォームの作成		16	II								
17	定期試験		17	7 定期試験								
	授業方法 業の進め方)	授業は基本タグを学んだ後、練習	3問是	夏で実習する。								
	到達目標	 HTML CSS を使って Web サイ	トを作	作成できる。								
	戈績評価の 5法と基準	・年間 4 回の中間・期末試験お。 ・出席率:20% ・授業態度点:20%	よびぽ	走習課題:60%								
	美時間以外に 必要な学修	・課題・レポートは期日までに作	して提出する。									
	冬に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原な姿勢があるかどうかなど平素の		の、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的 動を評価するものである。								

科目名 データベース実習 英文名 Database 学科科目番号 2-5 担当者 加川順一 実務経験の有無の有無の有無の有無の実務経験の有無の実務経験の有無の実務経験 本付置の有無の実施を経験 必修の有無の有無の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表										75 - 7 - 0		
担当者 加川 順一 の有無 有 必修 区分 専門科目・実習 開講期 通年 前期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回) 授業時数 128時間 教材 教具 スッキリわかる SQL 入門(インプレスジャパン) 担当者 の実務 システム会社にて、ネットワーク・データベースの構築	科目名	データベース実習 英文名			Database	e			2-5			
教材 教具 スッキリわかる SQL 入門 (インプレスジャパン) 担当者 の実務 システム会社にて、ネットワーク・データベースの構築	担当者	加川 川	頁一		有		必修		専門科	目・実習		
教具 スッキリわかる SQL 人門 (インプレスシャハン) 担当者 の実務 システム会社にて、ネットワーク・データベースの構築	開講期	期 通年 前期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回) 授業時							授業時数	128 時間		
の実務 システム会社にて、ネットワーク・データベースの構築		スッキリ	リわかる SQL 入門(イン	ンプレスジ	シャパン)							
	の実務	システム	システム会社にて、ネットワーク・データベースの構築									

【学修内容】科目のねらい(目的)

情報システムにおけるデータベースの役割を理解します。授業では図書館管理システムにおけるデー タの流れやデータベースシステムを取り上げて学習をします。正規化を学び、基礎的なリレーショナル データベースを設計します。MySQL を使用した実習により、データベースを管理・運用する技術を学び ます。あわせて SQL 言語を習得します。

		コマシラバス(前 期)	コマシラバス(後 期)							
1	データベースを	学ぶにあたって	1	集計とグループ化						
2	はじめての SQL		2	集計とグループ化						
3	はじめての SQL		3	副問合ゼ						
4	基本文法と4大	命令	4	副問合せ						
5	基本文法と4大	命令	5	副問合せ						
6	基本文法と4大	命令	6	複数テーブルの結合						
7	操作する行の絃	り込み	7	複数テーブルの結合						
8	操作する行の絃	り込み	8	トランザクション						
9	操作する行の絃	り込み	9	中間試験						
10	中間試験		10	テーブルの作成						
11	検索結果の加口		11	テーブルの作成						
12	検索結果の加口		12	さまざまな支援機能						
13	式と関数		13	さまざまな支援機能						
14	式と関数		14	テーブルの設計						
15	式と関数		15	5 テーブルの設計						
16	復習		16							
17	前期末試験		17	学年末試験						
	授業方法 業の進め方)		-	学期末に作成するプログラムに関するレポート、 や実習の進捗を総合的に評価する。						
	到達目標		境に	としたデータベース技術の適用を学ぶ。これによ おける情報の格納・集約・検索システムを実現す						
	対績評価の 方法と基準	・年間 4 回の中間・期末試験お。 ・出席率:20% ・授業態度点:20%	よびぽ	実習課題:60%						
	美時間以外に 必要な学修	・課題・レポートは期日までに作	ー 作成 し	して提出する。						
	冬に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原な姿勢があるかどうかなど平素の		り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的 動を評価するものである。						
	の留意点	な姿勢があるかどうかなど平素の	り行動	助を評価するものである。 						

科目名	ビジネス	ス日本語 II (Office)	英文名	Business	Japaı		学科科目 番号	2-6			
担当者		迪広 竞樹	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・実習		
開講期	通年	17 回)	後期:2	時間([授業時数	68 時間					
教材 教具	よくわれ	うる Word 2021 & Exce	el 2021 &	PowerPoi	nt 202	1					
担当者 の実務 経験		メーカー系ソフトウエア会社で、北米向け電子交換機のデータジェネレータ開発に従事後、 工業高校で主に情報系の教科やロボコンを指導しながら、学校のシステム管理を担当した。									

【学修内容】科目のねらい(目的)

Microsoft Office の基本的な操作・使用方法を学ぶ。

扱う文書を業務でよく値も形式・内容として 日本のビジネス慣習になれる

担	及う文書を業績	答でよく使う形式・内容として、	日本	のビジネス慣習になれる。
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)
1	第1章 さあり	始めよう Word 2021	1	第 10 章 さあ始めよう PowerPoint 2021
2	第2章 文書	を作成 Word 2021	2	
3			3	第 11 章 プレゼンテーション PowerPoint 2021
4	第3章 グラブ	フィックス機能を使う Word 2021	4	
5			5	第 12 章 スライドショー PowerPoint 2021
6	第4章 表の	ある文書 Word 2021	6	
7	定期試験		7	第 13 章 アプリ間でデータ共有
8	第5章 さあ	始めよう Excel 2021	8	定期試験
9	第6章 デー	タ入力 Excel 2021	9	総合課題
10			10	総合課題
11	第7章 表を	作成 Excel 2021	11	総合課題
12			12	総合課題
13	第8章 グラ	フを作成 Excel 2021	13	総合課題
14			14	総合課題
15	第9章 デー	-タを分析 Excel 2021	15	総合課題
16			16	総合課題
17	定期試験		17	定期試験
	授業方法 業の進め方)	授業は教科書に沿って進める。 には載っていない Tips も紹介す		時間中は疑問に答える場とする。また、教科書 最後は総合演習で締めくくる。
	到達目標		って	の基本操作ができるようになること 最適なアプリが選択できるようになること できること
	成績評価の 方法と基準 ・実習課題できばえ点:70% ・出席点:30%			
授業時間以外 ・自宅でもパソコンに向かい、 に必要な学修 ・課題・レポートは期日までに				の復習、予習を行うことが必要 して提出すること
	修に当たっ この留意点	授業中に終了できない課題につ	いて	は、自宅で仕上げるくらいの意識が必要。

科目名	日本語館	能力試験対策Ⅱ	英文名	Japanese Language Proficiency Test II				学科科目 番号	2-7
担当者	平野 裕久実務中村 菊子のる			無	選択 必修	必修	科目 区分	一般科	目・講義
開講期	通年	前期:4時間(回数:	17 回)	後期:4時間(回数:17回) 授業時数 136時間					136 時間
教材 教具	① N2/N1 読解スピードマスター② N2/N1 聴解スピードマスター③ ドリル&ドリル日本語能力試験 N2/N1 聴解・読解								

【学修内容】科目のねらい(目的)

N1 レベル相当の読解および聴解試験に十分な日本語力を身につける。

	同時に身に	つけた力を社会生活でも運用できる	るよう	うにする。					
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1	イントロダクション:授	業の進め方・JLPTの問題のスタイルの解説	1	前期の復習					
2	キーワード・解き方の	説明(パターン別攻略法)、例題①	2	実戦練習①(読解:長文、聴解:課題理解①)					
3	例題②		3	実戦練習②(読解:長文、聴解:課題理解②)					
4	実戦練習①(読解:短	至文、聴解:課題理解)	4	実戦練習③(読解:情報検索、聴解:ポイント理解①)					
5	実戦練習②(読解:短	豆文、聴解:ポイント理解)	5	実戦練習④(読解:情報検索、聴解:ポイント理解②)					
6	実践練習③(読解:短	豆文、聴解:概要理解)	6	実戦練習⑤(読解:情報検索、聴解:概要理解①)					
7	実戦練習④(読解:中	中文、聴解:発話表現、即時応答)	7	実戦練習⑥(読解:情報検索、聴解、概要理解②)					
8	実戦練習⑤(読解:中	中文、聴解:模擬試験①)	8	中間模擬試験					
9	中間模擬試験		9	実戦練習⑦(読解:情報理解、聴解:模擬試験)					
10	実戦練習⑥(読解:中	中文、聴解:模擬試験②)	10	実戦練習⑧(読解:情報理解、聴解:模擬試験【解説】)					
11	実戦練習⑦(読解:中	立、聴解:復習)	11	実戦練習⑨(読解:模擬試験:聴解:試験練習①)					
12	実戦練習⑧(読解:長	と文、聴解:音についての理解および文の種類の解説)	12	実戦練習⑩(読解:模擬試験【解説】、聴解:試験練習②)					
13	実戦練習⑨(読解:長	文、聴解:発話表現①)	13	実戦練習①(読解:試験練習①、聴解:試験練習③)					
14	実戦練習⑨(読解: 县	長文、聴解:発話表現②)	14	実戦練習⑪(読解:試験練習②、聴解:試験練習④)					
15	実戦練習⑪(読解;長	长文、聴解:即時応答①)	15	実戦練習⑬(読解:試験練習③、聴解:試験練習⑤)					
16	実戦練習⑫(読解:長	长文、聴解:即時応答②)	16	6 期末模擬試験					
17	期末模擬試験		17	総まとめ					
	授業方法 業の進め方)		解き、	受業を実施する。1 コマの授業内では、主にその その後、解説をする形をとる。なお、解説の際 よう。					
	到達目標		5. 3	いて、最低でも 80 パーセント以上正答できる また、試験だけでなく実際の生活で最低限必要な					
	战績評価の 5法と基準	 N2 模試における理解度および授 	:業の	出席状況、授業態度を総合的に評価する。					
	巻時間以外に 必要な学修	文法参考書『TRY!N2』提出の語 覚えていなかった語彙については		·予習する。授業のはじめにチェックし(火曜)、 度テストをする(木曜)。					
	多に当たって の留意点	毎時持参のこと。また、質疑応答	答をし	との確認を挟むため、文法参考書『TRY!N2』を しながら進めるので、積極的な参加を望む。ただ 意味がないので、パターン別の正しい解き方を習					

科目名	PHP/W	eb 実習	英文名	PHP/Wel	o Prac	tical trai	学科科目 番号	2-8	
担当者	小野 芽	支樹	実務経験 の有無	有	石 強制		科目 区分	専門科目・実習	
開講期	通年	前期:4時間(回数:	17 回)	後期:4	時間([授業時数	136 時間		
教材 教具	Laravel	の教科書 (ソシム)							
担当者 の実務 経験	システ』 築	ム開発会社にて、ソフト	ウェアのミ	システム設	計・開	発、デー	-タベー	ス・ネット	、ワーク構

【学修内容】科目のねらい(目的)

Web ページを操作する PHP プログラミングとデータベースについて学ぶ。PHP 及びデータベースの 概念と基礎を理解し、 Webページ開発を構築するための技術を身につける。

(Ł	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)						
1	PHP/WEB 実習で目	指すもの	1	投稿データの一覧表示						
2	Laravel で何ができる	SO ?	2	投稿データの一覧表示						
3	Laravel で何ができる	SO?	3	投稿データの一覧表示						
4	Laravel を使うための	準備	4	ミドルウェアによるアクセス制限						
5	Laravel を使うための	準備	5	ミドルウェアによるアクセス制限						
6	Laravel の仕組み		6	ミドルウェアによるアクセス制限						
7	Laravel の仕組み		7	復習						
8	定期試験		8	定期試験						
9	コードの基本的な入	力方法	9	データの個別表示・編集・削除処理「の搭載						
10	コードの基本的な入	力方法	10	データの個別表示・編集・削除処理「の搭載						
11	Laravel とデータベー	-スの連携	11	データの個別表示・編集・削除処理「の搭載						
12	Laravel とデータベー	-スの連携	12	テストデータ作成・ペジネーション搭載						
13	Laravel とデータベー	-スの連携	13	テストデータ作成・ペジネーション搭載						
14	投稿データの作成と	保存	14	エラー解決方法						
15	投稿データの作成と	保存	15							
16	復習		16	復習						
17	前期末試験		17							
	授業方法 業の進め方)			実施する。授業毎に学んだ内容について課題を課 で予習復習を行うことが,これまで以上に必須と						
	到達目標	サーバーを立ち上げ、Laravel で	₹ We	b サイトを構築できる。						
	戈績評価の 方法と基準	・年間 4 回の中間・期末試験お。 ・出席率:20% ・授業態度点:20%	よび多	実習課題:60%						
	業時間以外に 必要な学修・課題・レポートは期日までに作成して提出する。									
履個	である。 では、大学では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。 では、大学である。									

科目名	ビジネン	ス教養	英文名	Business	Skills	学科科目 番号	2-9		
担当者	岡本	支樹	実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	一般科	目・講義
開講期	通年 前期:1時間(回数:17回)			後期:1	時間(授業時数	34 時間		
教材 教具	勝つための就職ガイド SUCCESS								

【学修内容】科目のねらい(目的)

日本での就労を希望する留学生が、就職活動から採用試験までの心構えやスキルを身に付ける。

【挖	受業計画】	コマシラバス (前期)		コマシラバス(後期)						
1	就職活動の流	売れ	1	エントリーシート・履歴書						
2	就職活動の流	売れ	2	エントリーシート・履歴書						
3	就職活動での	り心構え	3	企業訪問						
4	就職活動での	り心構え	4	企業訪問						
5	自分を知る		5	面接試験						
6	自分を知る		6	面接試験						
7	職業を知る		7	面接試験						
8	職業を知る		8	筆記試験						
9	志望動機を明	月白にする	9	筆記試験						
10	志望動機を明	月白にする	10	どういう会社に就職したいのか-現実的な選択						
11	企業情報収算	集-就職したい会社	11	どういう会社に就職したいのか-現実的な選択						
12	企業情報収算	集-就職したい会社	12	どういう会社に就職したいのか-現実的な選択						
13	企業研究		13	エントリーシート・履歴書を書く						
14	企業研究		14	エントリーシート・履歴書を書く						
15	エントリー	シート・履歴書	15	エントリーシート・履歴書を書く						
16	エントリー	シート・履歴書	16	エントリーシート・履歴書を書く						
17	定期試験		17	定期試験						
	授業方法 業の進め方)	教科書を使った講義のあと、「記 定着を確認しながら就職活動に		「書く」「試す」「意見交換」で習ったことの げる。						
	到達目標	履歴書、エントリーシートが書け	·る。	面接のマナーを身につける						
成績評価の 方法と其準 b:出席点40%:全授業時数の				スト、その他アウトプット、加えて日頃の態度・ %以上の出席が必要。これに満たない場合は ても認定しない。 とし、60点以上を認定とする。						
授業時間以外 に必要な学修 アルバイトを通して働くことの				を考えてみること。						
	修に当たっ この留意点	聞くだけの講義ではない。「書いるかけること。	てみる	る」「話してみる」「行動してみる」に積極的に						

						/•\1X /\ *	7 I + 111	ていた目的 (マ その		
科目名	ネットワ	フーク	英文名	Network	s	学科科目 番号	31			
担当者	岡本 力	 受樹	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義	
開講期	前期	前期:2時間(回数:	17回)					授業時数	34 時間	
教材 教具	システム	ム開発技術(ウィネット)							
担当者 の実務 経験	メーカー系ソフトウエア会社で、北米向け電子交換機のデータジェネレータ開発に従事後、工 業高校で主に情報系の教科やロボコンを指導しながら、学校のシステム管理を担当した。									
【学修团	家】科目	目のねらい (目的)								

の留意点

な姿勢などを評価する。

IT 分野においては、通信路を介して複数のコンピュータがデータを共有する技術や状態のことをネッ トワークと呼ぶ。この科目ではコンピュータ同士がネットワークを介して通信する仕組みを基礎から学

【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)				
1	第2章 ネットワ	フークの概要	1					
2	第1節 ネットワ	ク方式 2						
3	"		3					
4	第2節 OSI 基本	本参照モデル	4					
5	"		5					
6	第3節 TCP/IP	プロトコル	6					
7	"		7					
8	定期試験		8					
9	第4節 IPアド	レス	9					
10	"		10					
11	第5節 ネットワ	フーク管理	11					
12	"							
13	第6節 TCP/IP	Pアプリケーションネットワーク管理 13						
14	"	¹⁷						
15	第7節 ネットワ	プーク応用技術	15					
16								
17	定期試験		17					
	授業方法 業の進め方)	教科書やプリントでの説明と演	習問是	夏の解答で理解度を確認しながら進める。				
	到達目標	各章ごとのポイントが理解でき	、章	^天問題を解くことができること。				
	戈績評価の 5法と基準	年間 4 回の中間・期末考査、随 出席率:30% 授業態度:40% 以上の項目を合計し、評価点を		う小テスト:30% 点法で算出し、60点以上を認定する。				
	巻時間以外に 必要な学修	授業ごとの予習・復習を心掛け	る。特	持に復習。				
履修	冬に当たって	授業態度点は、授業中の私語や	居眠	り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的				

74.000/H . = 1 122 4 14.44 . = 0 /4 = 7 / 3											
科目名	情報セキュリティ 英文名 Information security 学科科目 番号 32										
担当者	法華	実務経験 有 選択 必修 科目 内 区分 専門科目・講義									
開講期	後期 2 時間 (回数:17 回) 授業時数 34 時間										
教材 教具	システム開発と情報技術(ウィネット)										
担当者 の実務 経験	の実務 SE として主に下流工程業務に従事し、また IT 技術研修講師などの経験をもとに指導する。										

【学修内容】科目のねらい(目的)

IT や IoT(モノのインターネット)が世界に広がり浸透する中で、情報セキュリティに関わる問題は深 刻さが増すと同時に、企業や個人の生活において身近な問題となっている。本科目では、これらセキュ リティ上の脅威に関する基礎知識と対応策、そして実際にパソコンやスマートフォンを利用するにあたって気をつけるべき事項について、具体的な事例を基にしたセキュリティ対策の修得を目指す。

	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後期)							
1		1	第1節 情報セキュリティ							
2		2 "								
3		3 第2節 システムへの攻撃手法								
4		4 "								
5		5	小テスト							
6	6 第3節 暗号化技術									
7	7 "									
8	8 定期試験									
9		9	第4節 認証技術							
10		10	II							
11		11	第5節 セキュリティ技術							
12		小テスト								
13	3 第6節 セキュリティリスク									
14	14 "									
15	15 第7節 セキュリティ管理									
16	16 小テスト									
17	17 定期試験									
授業方法 (授業の進め方)										
到達目標	 各章ごとのポイントが理解でき、 	章末	^に問題を解くことができること。							
成績評価の 方法と基準										
授業時間以外に 必要な学修	- 「伊美、とのア質・復置を心酔ける、特に復置。									
履修に当たって の留意点										

科目名	資格対策Ⅲ(基本情報) 英文名 Preparation courseⅢ 学科科目 (Fundamental information) 番号 33											
担当者	平石 明	平石 明香実務経験 の有無有選択 必修必修科目 区分専門科目・演習										
開講期	通年 前期:4時間(回数:17回) 後期:4時間(回数:17回) 授業時数 136時間											
教材 教具	プリント											
担当者 の実務 経験	ソフトウェア開発会社でSE、PG。独立後ソフトウェア開発や Web サイトの作成、講師など											

【学修内容】科目のねらい(目的)

基本情報技術者試験に合格するための対策授業。幅広い知識が求められるため、深入りしすぎない よう かつ出題範囲をまんべんかくカバーする

「授業計画 コマシラバス (前 期) コマシラバス (後 期) コマシラバス (後 期) コンピュータの構成要素 2 ネットワーク 3 ネットワーク 4 ネットワーク 4 ネットワーク 4 ネットワーク 5 基礎理論 5 ネットワーク 6 据機理論 7 情報セキュリティ 6 据機理論 7 情報セキュリティ 8 アルゴリズムとブログラミング 9 アルゴリズムとブログラミング 10 アルゴリズムとブログラミング 10 システム開発 11 システム開発 11 システム開発 12 システム構成 11 システム開発 12 マネジメント 13 システム構成 12 マネジメント 14 ストラテジ 15 データベース 16 データベース 16 アータベース 16 ストラテジ 17 定期試験 ブリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。前時間の復習ミニテストを始める。 が時間の復習ミニテストを始める。 が時間の復習ミニテストを制める。 1 定期試験 アリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 1 定期によりで表述を記述する。 2 定期によりで表述を記述する。 2 定期によりで調べてみること。そして、とにかく 1 を認定する。 ま籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく 1 を記述された。 2 を記述された。 2 を記述された。 3 を記述されたいた。 3 を記述された。 3 を記述されたいま述された。 3 を記述されたいた。 3 を記述されたいま述されたいた。 3 を記述されたいたま述された。 3 を記述されたいま述されたいま述	よう	よう、かつ出題範囲をまんべんなくカバーする								
2 コンピュータの構成要素 2 ネットワーク 3 ネットワーク 4 ソフトウウエア 4 ソフトウウエア 4 ネットワーク 5 基礎理論 5 ネットワーク 6 情報セキュリティ 7 情報セキュリティ 8 アルゴリズムとプログラミング 9 システム開発 10 アルゴリズムとプログラミング 10 システム開発 11 システム開発 11 システム開発 12 システム構成 11 システム構成 12 システム構成 12 マネジメント 13 システム構成 12 マネジメント 14 ズトラテジ 15 ズトラテジ 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 2 全復習ミニテストで始める。 前時間の復習ミニテストで始める。 17 定期試験 2 全復習ミニテストで始める。 18 全復習ミニテストで始める。 18 全復習ミニテスト・20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定する。 接業時間以外に 必要な学修 複響に当たって 書籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく	【授	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後期)					
3	1	コンピュータの	構成要素	1	データベース					
4	2	コンピュータの	の構成要素 2 ネットワーク							
5	3	ソフトウウエア	プウエア 3 ネットワーク							
6 基礎理論 6 情報セキュリティ 7 接機理論 7 基礎理論 7 基礎理論 7 は報せキュリティ 8 情報セキュリティ 8 情報セキュリティ 9 アルゴリズムとブログラミング 9 システム開発 10 システム開発 11 システム開発 11 システム構成 11 システム構成 11 システム構成 12 マネジメント 13 マネジメント 13 マネジメント 14 データベース 14 ストラテジ 15 データベース 16 ストラテジ 16 ストラテジ 17 定期試験 7 リントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 前時間の復習ミニテストで始める。 1 全復習ミニテストの始める。 1 全復習ミニテストの始める。 1 全複習ミニテストの始める。 1 中間 4 回の中間・期末考査:50% ・ 随時行う復習ミニテスト: 20% 方法と基準 ・ 中間 4 回の中間・期末考査:50% ・ 出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定する。 1 授業時間以外に 必要な学修 授業ごとの予習・復習、特に復習を心掛ける。 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	4	ソフトウウエア		4	ネットワーク					
7 基礎理論 7 情報セキュリティ 8 情報セキュリティ 9 アルゴリズムとプログラミング 9 アルゴリズムとプログラミング 10 フルゴリズムとプログラミング 10 システム開発 11 システム開発 11 システム開放 11 システム開放 12 マネジメント 13 システム構成 12 マネジメント 14 ストラテジ 15 ズトタベース 16 ズータベース 16 ズータベース 16 ズータボース 17 定期試験 7リントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。前時間の復習ミニテストで始める。 一 政績評価の 方法と基準 ・ 中間 4 回の中間・期末考査:50%・随時行う復習ミニテスト:20%・出席率:30%以上の項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定する。 接業時間以外に 必要な学修 複習、特に復習を心掛ける。 17 を認定する。 をして、とにかく 17 を開発に当たって 事籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく	5 基礎理論 5 ネットワーク									
8 アルゴリズムとプログラミング 8 情報セキュリティ 9 アルゴリズムとプログラミング 10 アルゴリズムとプログラミング 10 システム構成 11 システム構成 11 システム構成 12 システム構成 13 マネジメント 13 マネジメント 14 ストラテジ 15 ズトラテジ 16 ズトラテジ 16 ストラテジ 17 定期試験 7プリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 検業の進め方) 前時間の復習ミニテストで始める。 19達目標 全復習ミニテストを始める。 中間 4 回の中間・期末考査:50%・ 地時行う復習ミニテスト:20%・ 出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定する。 接業時間以外に 必要な学修 投業ごとの予習・復習、特に復習を心掛ける。 100点法で算出し、60点以上を認定する。 110点法で算出し、60点以上を認定する。 111の点法で算出し、60点以上を認定する。 111の点法では表述ないよりに対し、60点以上を認定する。 111の点法では対しませばないよりに対しませばないよりに対しませばないよりに対しませばないませばないませばないませばないませばないませばないませばないませばない	6	基礎理論		情報セキュリティ						
9 アルゴリズムとプログラミング 10 アルゴリズムとプログラミング 10 システム構成 11 システム構成 11 システム構成 12 システム構成 12 マネジメント 13 マネジメント 14 ストラテジ 15 データベース 16 データベース 16 アータベース 16 アータベース 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 2 全復習ミニテストで始める。 18 全復習ミニテストを割以上の正答率を目指す。	7	基礎理論		情報セキュリティ						
10 アルゴリズムとプログラミング 10 システム開発 11 システム構成 11 システム構成 12 マネジメント 13 マネジメント 13 マネジメント 14 ストラテジ 15 データベース 16 データベース 16 アータベース 16 ストラテジ 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 17 定期試験 2復習ミニテストで始める。 前時間の復習ミニテストで始める。 前時間の復習ミニテストで始める。 1 全復習ミニテスト 6 割以上の正答率を目指す。	8	アルゴリズムと	プログラミング	8	情報セキュリティ					
11 システム構成 12 システム構成 13 システム構成 14 データベース 15 データベース 16 データベース 17 定期試験	9	アルゴリズムと	プログラミング	9	システム開発					
12 システム構成 12 マネジメント 13 マネジメント 14 ボータベース 14 ズータベース 15 ボータベース 16 ボータベース 16 ボータベース 17 定期試験 ブリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 17 定期試験 ブリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 18 (授業の進め方) 前時間の復習ミニテストで始める。 19 連目標 全復習ミニテストで始める。 ・年間4回の中間・期末考査:50% ・随時行う復習ミニテスト:20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定する。 授業時間以外に 必要な学修 投業ごとの予習・復習、特に復習を心掛ける。 種修に当たって 書籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく	10	アルゴリズムと	プログラミング	10	システム開発					
13	11	システム構成		11	システム開発					
14	12	システム構成		12	マネジメント					
15	13	システム構成		13	マネジメント					
16 データベース 定期試験	14	データベース	マベース 14 ストラテジ							
17 定期試験	15	データベース		15 ストラテジ						
授業方法 (授業の進め方) プリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 前時間の復習ミニテストで始める。 到達目標 全復習ミニテスト 6 割以上の正答率を目指す。 ・年間 4 回の中間・期末考査:50% ・随時行う復習ミニテスト:20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定する。 授業時間以外に 必要な学修 授業ごとの予習・復習、特に復習を心掛ける。 履修に当たって 書籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく	16	3 データベース 16 ストラテジ								
 (授業の進め方) 前時間の復習ミニテストで始める。 到達目標 全復習ミニテスト6割以上の正答率を目指す。 ・年間4回の中間・期末考査:50% ・随時行う復習ミニテスト:20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定する。 授業時間以外に 必要な学修 授業ごとの予習・復習、特に復習を心掛ける。 履修に当たって 書籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく 	17 定期試験 17 定期試験									
到達目標 全復習ミニテスト 6 割以上の正答率を目指す。 ・年間 4 回の中間・期末考査:50% ・随時行う復習ミニテスト:20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定する。 授業時間以外に 必要な学修 授業ごとの予習・復習、特に復習を心掛ける。 履修に当たって 書籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく										
 ・年間4回の中間・期末考査:50% ・随時行う復習ミニテスト:20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定する。 授業時間以外に 必要な学修 履修に当たって 書籍でもネットでもいいので、とにかく自分で調べてみること。そして、とにかく 	(授	業の進め方)	前時間の復習ミニアストで始める	5 。						
 成績評価の 方法と基準 ・		到達目標	全復習ミニテスト6割以上の正答	答率を	と目指す。					
必要な学修		成績評価の 方法と基準 ・								
		•		とにカ	いく自分で調べてみること。そして、とにかく					

科目名	システム	システム作成実習 英文名 System construction 学科科目 番号 34										
担当者	小野 英樹 実務経験 の有無 有 必修 選択 必修 科目 区分 専門科目・実習											
開講期	通年 前期:14時間(回数:17回) 後期:14時間(回数:17回) 授業時数 476時間											
教材 教具	参考:システム開発技術(ウィネット)											
担当者 の実務 経験	システム開発会社にて、ソフトウェアのシステム設計・開発、データベース・ネットワーク構築											

【学修内容】科目のねらい(目的)

現代社会において、ソフトウェアシステムすなわちソフトウェアを核とするシステムやサービスが基 盤として不可欠である。本実習では、要求分析・設計・実装・テスト・運用といったシステム構築のた

めの	めのエンジニアリングプロセス全体について学び、それに基づきシステムを作成していく。									
【授	受業計画】	コマシラバス (前 期)	コマシラバス(後 期)							
1	システム開発の	概要説明	1	プログラム実装						
2	システム開発の	ーマ検討 2 プログラム実装								
3	システム開発の	テーマ検討	プログラム実装							
4	要求分析		4	プログラム実装						
5	要求分析		5	プログラム実装						
6	要求分析		6	プログラム実装						
7	要求分析		7	テスト (単体、結合)						
8	システム設計		8	テスト (単体、結合)						
9	システム設計		9	テスト (単体、結合)						
10	システム設計		10	運用テスト (実環境)						
11	システム設計		11	運用テスト(実環境)						
12	システム設計		12	ドキュメント作成						
13	システム設計レ	ビュー	13	ドキュメント作成						
14	プログラム実装	14 ドキュメント作成								
15	プログラム実装	15 プレゼン準備								
16	プログラム実装		16	プレゼン準備						
17	プログラム実装		17	発表会						
	授業方法 (授業の進め方) 教科書やプリントでの説明と演習問題の解答で理解度を確認しながら進める。									
	到達目標	各章ごとのポイントが理解でき、	章才	^{天問題を解くことができること。}						
	ጲ績評価の ラ法と基準	成果物:30% 出席率:30% 授業態度:40% 以上の項目を合計し、評価点を:	点法で算出し、60 点以上を認定する。							
	美時間以外に 公要な学修	授業時間には限りがあるため、自 作業をおこなうこと(計画に支降	・も積極的に自分に課せられた役割を果たすため、 出ないようにすること)。							
	冬に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や原 な姿勢などを評価する。	居眠り	り、机上整理、言葉遣い、授業に取り組む積極的						
		1								

図有無 必修 区分 開講期 通年 前期:2時間(回数:17回) 後期:2時間(回数:17回) 授業時数 68時 教材 カリント 担当者 ソフトウェア開発会社でS.F. P.G. 独立後ソフトウェア開発やWeb サイトの作成 講師												
担当者 平石 明香 の有無 有 必修 区分 一般科目・講義 開講期 通年 前期:2時間(回数:17回) 後期:2時間(回数:17回) 授業時数 68時 教材 教具 プリント 担当者 ソフトウェア開発会社でS.F. P.G. 独立後ソフトウェア開発やWeb サイトの作成 講師	科目名	Eシネス日本語 英文名 Business Japanese 番号 35										
教材 教具 プリント 担当者 ソフトウェア開発会社でSE PG 独立後ソフトウェア開発やWeb サイトの作成 講師	担当者	半石 - 明杏										
教具 フリント 担当者 ソフトウェア開発会社でSE PG 独立後ソフトウェア開発やWeb サイトの作成 講師	開講期	通年	前期:2時間(回数:	17 回)	後期:2	時間(回数:17	' 回)	授業時数	68 時間		
		プリン	ŀ									
経験と	の実務		ウェア開発会社でSE、	PG。独	立後ソフト	・ウェン	ア開発や	Web サ	イトの作品	戈、講師 な		

【学修内容】科目のねらい(目的)

ビジネスの世界で使われるビジネス用語に困らないよう、ビジネス日本語の「聴く・読む・話す・

- 書く	書く」を鍛える。									
【挖	受業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後期)						
1	社内メール		1	売り上げ成績						
2	社内メール		2	売り上げ成績						
3	会議準備		3	個人情報						
4	会議準備		4	個人情報						
5	電話とお詫び		5	顧客満足度						
6	電話とお詫び		6	顧客満足度						
7	お知らせ文書		7	出張						
8	お知らせ文書		8	出張						
9	キャッチコピー		9	提案						
10	キャッチコピー		10	提案						
11	同僚との雑談		11	インタビュー						
12	同僚との雑談		12	インタビュー						
13	値引き交渉		13	日程調整						
14	値引き交渉		日程調整							
15	営業活動		15	展示会						
16	営業活動		16	展示会						
17	定期試験		17	定期試験						
	授業方法 業の進め方)	教科書やプリントでの説明と音	声教	材で理解度を確認しながら進める。						
到達目標 話し手の説明で聞き手が理解で				こと。それが行動につながること。						
・年間4回の中間・期末考査:・随時行う復習ミニテスト:20・出席率:30%以上の項目を合計し、評価点を										
授業時間以外 に必要な学修 その日の教材をその日のうちに				一度読むこと。						
-	修に当たっ この留意点	機会を見つけて日本語で話すこ	と。	メディアを活用して日本を聴くこと。						

履修に当たっ ての留意点

絶対に必要。

	※授業の1単位時間は45分とする											
科目	1名	一般教	· E	英文名	General Education					学科科目 番号	37	
担当者 小野 英樹 実務経験 の有無						無 選択 必修 凶修 区分				一般科目・講義		
開請	開講期 通年 前期:1時間(回数:17回)						時間 (回数:17	回)	授業時数	34 時間	
教 教		プリン	 									
	【学修内容】科目のねらい(目的) 日本での就労を希望する留学生が知っておくべき最低限の一般知識											
【授	受業計	·画】	コマシラバス (前期)					コマシラ	バス(彳	後期)		
1	性格	検査			1	国語	(日本語	語):語彙				
2	性格	検査			2	国語	(日本語	語):語彙				
3	性格	検査			3	国語	(日本語	語:語彙				
4	SPI	非言語	食査		4			語:語彙				
5		非言語			5			語:語彙				
6	SPI 非言語検査					6 国語(日本語):語彙						
7		非言語		7	LL A LL ord							
8						8 社会:地理						
9		言語検査			9 社会:地理							
10		言語検査			10 社会:地理							
11		言語検査			11 社会:地理							
12		(日本語			12 社会:経済							
13		(日本語			13							
14		(日本語			14							
		(日本語 (日本語				15 社会:経済 16 社会:経済						
$\begin{vmatrix} 16 \\ 17 \end{vmatrix}$		(口本語 試験			16	定期						
17	上 为	一种			17	上 朔	라い初史					
	授業方法 プリントでの説明と演習問題で理解度を確認しながら進める。 (授業の進め方) 記憶問題、解法理解問題については復習ミニテストを行う。											
	到達目標 対日本人と同等レベルの問題を解くので 40%以上の正答を目指す。											
 ・年間 4 回の中間・期末考査:50% ・随時行う復習ミニテスト:20% ・出席率:30% 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定で 					認定する。。							
	授業時間以外 に必要な学修 持っている情報端末でニュースを見聞きすること。											

授業中の勉強だけでは時間が足りない。記憶の定着を図る意味でも、復習は